

誕生寺

<http://digitalarchiveproject.jp/information/誕生寺/>



誕生寺は、日家上人により建治 2 年(1276)に創建したと伝えられる日蓮宗の寺院で、明応 7 年 8 月(1498)と元禄 16 年(1680)に地震と津波により七堂伽藍を失う被害を受けた。その後再建された現存の仁王門は、宝永 3 年(1706)に建立されたものである。仁王門は 5 間 3 戸の楼閣門で、下層に和様三手先、上層に唐様三手先の組物を持ち、本墓股の中備としている。いくつかの装飾の中でも、楼上に見える般若の彫刻は左甚五郎の作と伝えられている。幾度かの修理を経て、部分的な改変はあるものの全体として創建時の様子をとどめており、県内では最大規模の仁王門として貴重な建造物である。



0001_誕生寺



0002_誕生寺



0003_誕生寺



0004_誕生寺



0005_誕生寺



0006_誕生寺



0007_誕生寺



0008_誕生寺



0009_誕生寺



0010_誕生寺



0011_誕生寺



0012_誕生寺



0013_誕生寺



0014_誕生寺



0015_誕生寺



0016_誕生寺



0017_誕生寺



0018_誕生寺



0019_誕生寺



0020_誕生寺



0021_誕生寺



0022_誕生寺



0023_誕生寺



0024_誕生寺



0025_誕生寺



0026_誕生寺



0027_誕生寺



0028_誕生寺



0029_誕生寺



0030_誕生寺



0031_誕生寺



0032_誕生寺



0033_誕生寺



0034_誕生寺



0035_誕生寺



0036_誕生寺



0037_誕生寺



0038_誕生寺



0039_誕生寺



0040_誕生寺



0041_誕生寺



0042_誕生寺



0043_誕生寺



0044_誕生寺



0045_誕生寺



0046_誕生寺



0047_誕生寺



0048_誕生寺



0049_誕生寺



0050_誕生寺



0051_誕生寺



0052_誕生寺



0053_誕生寺



0054_誕生寺



0055_誕生寺



0056_誕生寺



0057_誕生寺



0058_誕生寺



0059_誕生寺



0060_誕生寺



0061_誕生寺



0062_誕生寺



0063_誕生寺



0064_誕生寺



0065_誕生寺



0066_誕生寺



0067_誕生寺



0068_誕生寺



0069_誕生寺



0070_誕生寺



0071_誕生寺



0072_誕生寺



0073_誕生寺



0074_誕生寺



0075_誕生寺



0076_誕生寺



0077_誕生寺



0078_誕生寺



0079_誕生寺



0080_誕生寺



0081_誕生寺



0082_誕生寺



0083_誕生寺



0084_誕生寺



0085_誕生寺



0086_誕生寺



0087_誕生寺



0088_誕生寺



0089_誕生寺



0090_誕生寺



0091_誕生寺



0092_誕生寺



0093_誕生寺



0094_誕生寺



0095_誕生寺



0096_誕生寺



0097_誕生寺



0098_誕生寺



0099_誕生寺



0100_誕生寺



0101_誕生寺



0102_誕生寺



0103_誕生寺



0104_誕生寺



0105_誕生寺



0106_誕生寺



0107_誕生寺



0108_誕生寺



0109_誕生寺



0110_誕生寺



0111_誕生寺



0112_誕生寺



0113_誕生寺



0114_誕生寺



0115_誕生寺



0116_誕生寺



0117_誕生寺



0118_誕生寺



0119_誕生寺



0120_誕生寺



0121_誕生寺



0122_誕生寺



0123_誕生寺



0124_誕生寺



0125_誕生寺



0126_誕生寺



0127_誕生寺